

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(4月2日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。 ②「思考力、判断力、表現力その他の能力」を育成する。	生徒が主体的に取り組むような工夫を、より多くの授業者が行い、その情報を互いに共有する。	各教科共通の授業研究テーマを設定するなど授業研究の目標を設定し、生徒が主体的に取り組む学習形態の実践をはかるとともに、自教科、他教科問わず互いに見学し、手法の共有をして、今後の授業に活かしていく。	年2回行われる「生徒による授業評価」の主体的、協働的な取り組みに関する質問のポイントが向上したか。	授業研究テーマを各教科で検討するとともに、各教科共通の授業研究テーマを設定した。 11/13(月)～11/17(金)に各教科で研究授業を実施し、さらに11月下旬に研究授業を行い、グループワークの授業やICTを活用する授業の実践例を共有し授業に反映するようにした。また、その経過を第2回生徒による授業評価で確認した。	主体的・協働的な取組に関する質問のポイントは、全校では増加しているものの、学年によって増加の状況は異なっている。それぞれの学年に合わせての工夫が必要である。	国公立受験向けのカリキュラムの設定を研究して、受験科目の選択に関して、生徒の不安がないように願いたい。また、自分から様々なことを発信できるように力やグローバルな社会に対応できる力をつけてほしい。	「課題解決に生徒が主体的に取り組む授業を工夫する」という校内統一テーマのもとに授業公開を行った。グループワークやICTの活用などの実践が多々みられるようになった。今後も、主体的で深い学びの実践に向けた授業研究を進める。	生徒が自ら問題を発見し解決するちからする力の育成の工夫に取り組むとともに、教育課程の改善に向けた検討を進める。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	①生徒の多様性に十分に答え、個に応じた体制を整える。 ②部活動・委員会活動等において、生徒の自主性を育てる。	①生徒一人ひとりの課題を正確に把握し、解決を図る。 ②学校行事・部活動・委員会活動等において、自他を大切に、目標達成のための学年等を超えた連携を強める。	① ケース会議や研修会を適切に開催し、情報の共有をはかるとともに、必要に応じて外部機関と連携する。 ② 授業以外の活動等でクラス・学年を超えた取組を推進し、活発なコミュニケーションが必然的に行われるような環境づくりを進め、学校外の取組にも積極的に参加するようにする。	① 情報共有が適切になされ、組織として個々の生徒に必要な支援がなされたか。 ② 部活動に92%以上加入したか。また、学年を超えたコミュニケーションが促進され、学校外の活動に参加する生徒が増えたか。	① 教育相談コーディネーターを中心に13回のケース会議を開催するとともに、研修会を実施し、生徒への適切な支援と職員間の情報共有に努めた。 ② 部活動加入率は97%に上昇し、弓道部・陸上部・文芸部の関東大会出場、弓道部・剣道部の県大会4強進出などの活躍がみられ、各種行事の企画運営でも生徒は積極的に取り組んだ。	① 継続して支援を要する生徒への適切な対応とケース会議の開催について柔軟に対応する。 ② 部活動の活発化に伴い、指導者の更なる資質向上や環境整備が課題となる。今年度初めてグラウンドにナイター照明を設置し、夜間の事故防止対策を行ったが、一部分にしか過ぎず今後増設が必要である。赤い羽根募金以外にボランティアへの参加が少ないので啓発の工夫が求められる。	① 中学校でも、支援が必要な生徒が増えてきている。今後も細やかな指導を継続してほしい。 ② グラウンドの夜間照明などについては、同窓会として協力していきたい。また、部活動の加入率は、他と比べてどうなのか気になる。	① 教育相談コーディネーターを中心に情報交換を密に行い、情報共有を深めることで、支援を必要とする生徒の早期発見・早期支援に努めた。 ② 授業以外の場面で、生徒が自主的・計画的に主体性をもって物事に取り組み、コミュニケーション能力を向上させるよう支援した。	① 支援を要する生徒の多様化、規範意識やコミュニケーション能力の低下などに対応し、一層の職員体制の強化と情報共有・連携が必要である。 ② 部活動の活性化に向けた意識を日常生活の中でも持たせるとともに、生徒の自主的な活動の場の整備拡充を推進する。
3 進路指導・支援	①生徒各自が自分自身の目標を早めに設定する。 ②現状と進路希望のギャップを解消する具体策について助言する	1年次から生徒が広く情報を収集し、具体的な目標を定め、家庭での学習時間を増やす。	① 最新の情報を共有し、実力テスト等のデータ活用のための職員研修の充実と、生徒面接の充実を図る。 ② 学年に応じた説明会講演会を開催し、生徒個々の進路意識を高める。	① 最新情報の教員への提供と、生徒の各種データを活用した、進路指導が行えたか。 ② 生徒への最新情報提示を行い、各種イベントに参加人数が	① 「キャリア教育実践プログラム」に沿った進路指導を行い、生徒個々の希望に応じた進路支援が行えた。 ② 各学年に応じた進路説明会	① 新しい学力観、社会のニーズに対応した進路支援を行う。 ② 教務グループ等の他グループとの連携をとり、社会の流れに対応できる生徒支援のための条件整備を行う。	① 大学が変わっていくなど、世の中の動きに対応した指導を求めたい。 ② 基礎学力きちんとつけることが大切だと考える。また、保護者の中には社会の変化について、理解されていないことがあるよ	① キャリア教育実践プログラムに沿った進路指導を行い、生徒個々の希望に応じた進路支援が行えた。 ② 各学年に応じた進路説明会を実施できた。生徒向け、職員向け、それぞ	① ②他のグループと連携し、生徒・保護者のニーズと社会の方向性を踏まえた、キャリア教育・進路支援を推進する。あわせて、企業や大学等と連携した情報提供も検討したい。

					増え、満足度が向上したか。また現時点で進路希望を持ち、発信できるか。	を実施することができた。 ・「スタディーサブリ（適性検査）」 「スタディーサポート」 「実力テスト」等の、生徒向け、職員向けのデータ分析研修会を実施し、それぞれのデータを活用した進路支援を行った。		うなので、そうした視点でも学校から情報を発信してほしい。	れのデータ分析説明会を実施し、適性検査や実力テストのデータを活用した進路支援を行った。	
4	地域等との協働	①地域と連携することにより、鎌倉の文化と伝統に関する理解を深める。 ②地域の学校や保護者と学校行事・授業を通じて連携する。	地域の学校や保護者との連携で、内容・回数共に増やす。	①鎌倉文学歴史散策の取り組みや成果を、授業を含むさまざまな機会を活かし、鎌倉の文化と伝統に関する理解を深める。 ②各種説明会を通して、本校の魅力を中学生・保護者へ発信すると共に、近隣学校生徒の学校訪問受け入れや出張授業、また本校職員の中学校訪問を通して、地域の小・中学校との交流を図る。	①鎌倉文学歴史散策などを通して、鎌倉の文化や伝統への理解が深まったか。 ②本校の魅力・特色を中学生・保護者に発信することができたか。また、ほぼ全ての教科で、地域の小・中学校との連携を深める活動に関わることができたか。	① 鎌倉文学歴史散策では、事前学習や事後の壁新聞づくり、またその壁新聞を使い英語で発表するなどの取り組みを通して、理解が深まった。 ② 説明会や中学校訪問、出張授業などを通して本校の魅力を発信している。	①今後も継続して鎌倉文学歴史散策の壁新聞などを活かした授業を行い、鎌倉の文化や伝統への理解をさらに深める。 ②説明会の日程や形を再検討し、より効果的に魅力を発信できるように工夫したい。またHPを通して迅速な情報発信に努める。	① 登下校の姿を見ても、挨拶する生徒が多く、地域では好感を持っている人が多い。生徒の行動がさすがらしく見える。社会の進行や学校の変化についていけない人もいるのではないかと思う。様々な情報を発信してほしい。	① 総合的な学習の時間の事前事後指導を行う中で、生徒の主體的・積極的な学習活動を推進するとともに、郷土の歴史や文化について得た知識や体験を外国語で発信するなど、発展的な学習に結びつけることができた。 ② ほぼすべての教科で地域の小・中学校と連携を深める活動にかかわることができた。	① 授業の成果を蓄積・継承して、より生徒の学びを深めるものへの工夫を継続する。 ② ホームページを通じた、迅速な情報発信を行う。
5	学校管理 学校運営	①ミッションに基づいた学校運営を行い、学校教育目標の実現に努める。 ②業務遂行にあたり、改善案が積極的に提案されるようにする。	① 4年間で学校が進むべき方向を、教職員が確実に把握し、工夫改善を図る。 ② 防災備蓄用品の充実を図るとともに、生徒の防災意識の向上を図る。	① インクルーシブ教育の実践に向け、学習環境のバリアフリー化を目指す。 ② 生徒を対象としたDIG研修を実施し、地域の特性を生かした適切な対応ができる人材の育成を図る。	① 学習環境(特に教室)におけるバリアフリー化が推進できたか。 ② 防災意識の向上だけでなく、災害時において主体的な防災活動が行える人材育成が行えたか。	① 学習環境のバリアフリーに向けての取り組みを検討中である。 ②・防災備蓄用品の充実に向け、備蓄食料の更新、鎌倉市との連携による用品の充実を図った。 ・生徒の意識向上に向けた取り組みについては課題が残った。	① 具体的な方策の実現に向けて、現状の把握と職員間での共通理解に向けた取り組みを推進していく。 ②・生徒だけでなく地域住民との協働によるDIG研修等の実施に向けて取り組みを進める。 ・防災備蓄用品のより一層の充実と整備を行っている。	① 学習環境が良いのは、授業時間中にも校内が静かなことでもわかる。学校行事も、部活動も、大学進学も、という願いをバランスさせて成果を出してほしい。 ② 地域と学校の往復の機会があるとよい。例えば、消防団の活動を見に行く、逆に消防団が学校に出向くなど。	① バリアフリー化について、一部の用品の整備を行ったが、全教室に統一した整備を行うことが今後の課題となっている。また、ごみの分別について、鎌倉市役所から職員にレクチャーを行ってもらった。 ② 防災備品の整備は着実に進行しており、防災訓練などで、生徒の防災意識を高めた。	① ユニバーサルデザインの視点を持って学習環境の整備を継続する。 ② 防災に係る人材育成と地域との協働を進める。